



1



2



- 1 2つの大陸
2012 | KAWS 氏蔵
- 2 善徳の雲と善徳の関係
1988 | 作家蔵 (広島市現代美術館寄託)
- 3 ミケランジェロと北斎の因果関係
1990 | 作家蔵
- 4 地の鼓動
1993 | 横尾忠則現代美術館蔵

3



4

横尾さんにとって、「模写」と「コラージュ」は創作の中核をなす2大要素です。「模写」については、当館の開館記念展「横尾忠則展 反反復反復」において、その極端なかたちである「セルブコピー」に着目しました。一方の「コラージュ」もぜひとりあげたかったのですが、これがなかなか難しい。あらゆる横尾作品に何らかのかたちで「コラージュ」的な要素が見受けられるので、作品を選ぶのが一筋縄ではいかないのです。試行錯誤の末、1988~94年の約7年間に的を絞ることにしました。この時期、既存のイメージを本来の場所から引き剥がし(cut)、新たな文脈へと投げ込む(paste)、さまざまな造形上の実験が集中的に行われているのです。

1988~89年の約2年間、横尾さんは約18cm幅に切り裂いたキャンバスを編み物のように交差させたシリーズを集中的に制作します。ヒッチコックの「北北西に進路を取れ」やフリッツ・ラングの「メトロポリス」などの映画、ルーベンスやコレージュなどのバロック絵画、デュシャンやピカビアといった横尾さんが敬愛する近現代のアーティストの肖像などが、バズルのピースのように断片化して描き込まれています。一見すると、絵を描いたキャンバスをハサミで帯状に切り、別の図柄どうしを組み合わせて再構成したかのように見えますが、実際には、帯状のキャンバスを組み合わせた支持体を先につくり、そこから触発されて様々なイメージを描き込んで行ったそうです。

続く1990~91年、こうした複雑な絵画空間は通常の単一のキャンバスに移しかえられます。前者では、原則として布帯の境目でイメージが切り替わっていたのですが、後者では各モチーフ

ているかのようにみせる装置のことで。ちょうどDTPが普及しはじめた頃で、横尾さんもグラフィックデザインの仕事にマッキントッシュを導入します。そして、コンピュータ・グラフィックを横尾さんが初めて美術作品に応用したのが、これらの作品なのです。宗教や神話にまつわる様々なイメージなどがスキャンされ、仮想空間上で文字通りカット&ペーストされています。これまで見てきた作品は、コラージュ的な考え方を応用してはいますが、いわゆるコラージュ

の輪郭線などがイメージの境界線となっていて、結果的に、透明なレイヤーに描かれたイメージが複雑に重ねられ、互いに浸食しあうかのような、独特な絵画空間が生み出されています。そこにはグラフィックデザインにおける、凝りに凝った複雑な版下制作の経験が活かされているようです。

2Fの展示室に悠然と配置された大作群の迫力はなかなかのもので、当時50代の横尾さんの進るようなエネルギーが伝わってきます。'80年代初めにいわゆる「画家宣言」を行い、デザイナーから画家へと転身した横尾さんの絵画に対して、当時は賛否両論が寄せられました。今回、これらのペインティングを改めて先入観なしにみる、よい機会だったではないでしょうか。さらには1993~94年には、いわゆる「テクナメーション」による、光源の手前で偏光板を回転させることで、あたかも静止画の一部が動い

山本淳夫 | 本館学芸課長

Information

次回展関連イベント

開館3周年記念展
横尾忠則 続・Y字路
2015年8月8日(土)~11月23日(月・祝)
休館日: 月曜日
※ただし、9月21日(月・祝)、10月12日(月・祝)、11月23日(月・祝)は開館、9月24日(火)、10月13日(火)は休館
観覧料: 一般 700(560)円、大学生 550(440)円、高校生・65歳以上 350(280)円、中学生以下無料
※()内は20名以上の団体および前売(高校生・65歳以上は前売なし)料金
※障がいのある方とその介護の方(1名)は各当日料金の半額(65歳以上除く)

あがた森魚ライブ
出演: あがた森魚
日時: 11月15日(日) 18:30開場/19:00開演
会場: 当館オープスタジオ
定員: 200名(スタンディング)
観覧料: 未定(有料)
※要予約、応募者多数の場合は抽選

YYワークショップ
日時: 8月27日(木) 13:30~16:00
会場: 当館オープスタジオ
定員: 15名
参加費: 無料
対象: 小学生以上
※小学生は保護者の付き添いが必要
※高校生以上の展示室への入場は要観覧券チケット
※要予約、応募者多数の場合は抽選

イブニング・ギャラリーーツァー
講師: 当館学芸員
日時: 8月15日(土)、9月5日(土) いずれも18:00~18:45
集合場所: 当館オープスタジオ

各イベントの詳細はHPなどでご確認ください

兵庫県立美術館 | 展覧会スケジュール

- 【特別展】
舟越桂 私の中のスフィンクス 6月27日(土)~8月30日(日)
パウル・クレー だれにもないしょ。9月19日(土)~11月23日(月・祝)
【県美プレミアム】
特集 VS (ヴァーサス)ーコレクション新旧対決!
小企画 美術の中のかたち 一手で見る造形 手塚愛子展 7月18日(土)~11月8日(日)
【その他】
天野喜孝展 想像を超えた世界 6月27日(土)~8月30日(日)
神戸ビエンナーレ 2015 ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム 9月19日(土)~11月23日(月・祝)
チャンネル6 国谷隆志展(仮題) 10月29日(木)~11月29日(日)

※兵庫県立美術館の特別展または県美プレミアムの有料チケット半券ご提示で、当館の企画展を団体割引料金でご覧いただけます(詳細はHPなどでご確認ください)

編集後記

エネルギーのこもった大作がずらりと並んだ今回の展覧会、いかがでしたでしょうか。次号ではいよいよ、横尾さんのライフワークである「Y字路」シリーズを特集します。おたのしみに!(林)

Topics

入館者20万人突破!

「大涅槃展」クライマックスの2015年3月25日に、入館者数20万人を突破しました。2012年11月3日の開館から約2年半での達成となりました。思えば、開館直後の1年間は、近隣の皆様やファンの方々をはじめ、横尾さんと親しいアーティストや各界の著名人など、様々なお客様にご来館いただきました。現在では、美術館の名前も徐々に知れ渡り、海外からのお客様や、展覧会ごとにお越し頂いている常連の方もいらっしゃいます。今年で3年目を迎えた横尾忠則現代美術館。まだまだ美術館としては新米ですが、今後ともスタッフ一同を引き締めて、さらに楽しい展覧会やイベントを開催していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

藤原晴日 | 本館学芸員補助



たくさんの方にお越しいただきました



Y+T MOCA

〒657-0837 兵庫県神戸市灘区原田通3-8-30
Tel: 078-855-5607(総合案内) Fax: 078-806-3888
www.ytmocca.jp

横尾忠則現代美術館ニュース Vol.10
2015年7月20日発行
編集・発行: 横尾忠則現代美術館 印刷: 株式会社 大伸社

the Y+Times

横尾忠則現代美術館ニュース

YOKOO TADANORI MUSEUM OF CONTEMPORARY ART NEWS LETTER

Special Report

横尾忠則展 カット & ペースト 切った貼ったの大立ち回り

Event Report

- 01 ねんどで my 涅槃
- 02 玉川 奈々福 浪曲ライブ
- 03 くじ引きコラージュで遊ぼう!
- 04 デヴィッド・チュードア 「レインフォレスト」コンサート

Preview

開館3周年記念展 横尾忠則 続・Y字路
Column
新収蔵品紹介
Editor's Choice
MUSEUM SHOP・アーカイブルーム
Information
次回展関連イベント/兵庫県立美術館 展覧会スケジュール



Special Report



まるで秘宝館? 暗闇に妖しく書くテクナメーション

YOKOO TADANORI CUT & PASTE

横尾忠則展 カット & ペースト 切った貼ったの大立ち回り

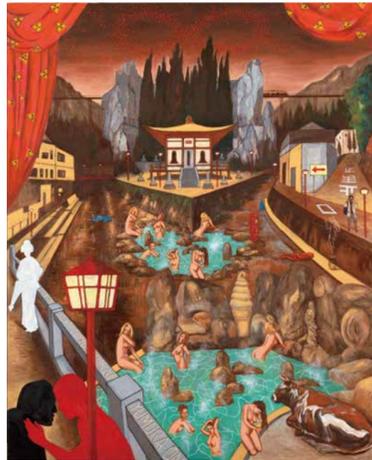


走るエネルギー、圧巻の大作群!

10

2015.7.20

開館3周年記念展 横尾忠則 続・Y字路



夢千代日記 | 2007/2010 | 作家蔵 (横尾忠則現代美術館寄託)

2015年8月8日(土)~11月23日(月・祝)

「Y字路」シリーズは、2000年に横尾さんが故郷の西脇市で撮影した一枚の写真が発点となっています。少年時代の想いの場所を訪ねた横尾さんは、足繁く通った模型店が姿を消していることを知り、その跡地をカメラに収めます。しかし、現像された写真に写っていたのは、闇の中の見知らぬ風景。そこにはもう郷愁が入り込む余地はありませんでした。この時、横尾さんの意識に大きな変化が起こったのです。それまで自分自身の探究が普遍性に向かうと信じて制作を続けてきた横尾さんが、突然その制作手法をリセットし、「私」的なものを完全に排除した作品に取りかかりました。こうして、一片の郷愁もない三叉路の写真を実際にキャンバスに写し取った、最初の「Y字路」が生まれたのでした。

当初、何の意味も持たなかった「Y字路」は、繰り返し描かれるうちに横尾さんの膨大なイメージの受け皿となり、いまや創造の実験場と化しています。本展では、2006年以降に制作された「Y字路」作品から約70点を紹介します。温泉地を巡って縁のモチーフを詰め込んだ「温泉」シリーズ、全国各地の美術館での公開制作、実験的な連作「黒いY字路」など、「Y字路」づくしの展覧会です。「Y字路」の先に広がる横尾ワールドをぜひ探検しにきてください。

平林 恵 | 本館学芸員



- 1 いずれおろぬ力作ぞろい!
- 2 紙粘土に絵具をまぜて色をつけます
- 3 大人も子どもも思わず夢中に...



01 Event Report

ねんどでmy涅槃

2015年2月14日(土)、2月21日(土)
 ①10:30~11:30 ②13:30~14:30 ③15:00~16:00 ④16:30~17:30
 当館 オープンスタジオ (1F)、展示室

横尾さんが収集した約600体の涅槃像コレクションが大集結した「横尾忠則大涅槃展」。涅槃像は、一般的には死に際のお釈迦様の寝姿をあらわしたものです。横尾さんのコレクションはこれに留まりません。カエルや猫、天使にサンタクロースまで、ありとあらゆるものたちが集結した、じつにユニークなコレクションなのです。

これにらって、今回のワークショップでは、参加者が粘土でそれぞれのオリジナル涅槃像を制作し、それらを集めて展示することで、美術館にもう一つの「涅槃像コレクション」を出現させることになりました。今回は大人の方の参加も多く、粘土をさわること自体が久しぶり、という方もいらっしゃいましたが、いざ制作に入ると、みなさん涅槃像づくりに熱中! 雪だるま涅槃、始祖鳥涅槃、休日のおとうさん涅槃、左手涅槃、エビフライ涅槃など、奇想天外な味わい深い作品が次々と生み出され、コレクションに加えられていきました。

計2日間、8回の開催で、約120体のオリジナル涅槃像が完成し、オープンスタジオには一大コレクションが出来上がりました。

林 優 | 本館学芸員

平林 恵 | 本館学芸員

02 Event Report

玉川 奈々福 浪曲ライブ

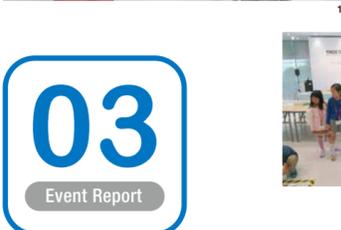
2015年2月22日(日) 14:00~15:30
 当館 オープンスタジオ (1F)
 出演: 玉川 奈々福 (浪曲師)、沢村豊子 (曲師)

2月22日、浪曲師の玉川奈々福さんと曲師(三味線)の沢村豊子師匠をお招きして、当館ではじめての浪曲ライブを開催しました。会場は、通常の寄席とは異なるオープンな空間で、人の出入りも多い場所。果たして浪曲の口演がうまくいくのか、いささかの不安を抱えつつの幕開けでしたが……じつは奈々福さん、元々出版社に勤務されており、横尾さん担当の編集者から浪曲師へと転身された異色の経歴の持ち主。開始早々、横尾さんの笑い話で一氣に場が和み、三味線がべべん、と小気味良いリズムで鳴り始めると、あとはもう流れるままに、ここが美術館であることも忘れて、歌と語りとの入りが交じる浪曲の世界にどんどん引き込まれていくのでした。演目は、若き浪曲師の修業物語「浪花節更紗」と、奈々福さんオリジナルの「金魚夢幻」。奈々福さんの深刺とした声と、豊子師匠の熟練の三味線との絶妙な掛け合いに、偶然来館されたお客様も思わず足をどめ、その場で聞き入っていらっしゃいました。

林 優 | 本館学芸員



客席から飛ぶ「日本一!」の掛け声



03 Event Report

くじ引きコラージュで遊ぼう!

2015年5月9日(土) 13:30~15:30
 当館 オープンスタジオ (1F)

今回、横尾さんの80年代末から90年代初頭のコラージュ作品を集めた「横尾忠則展 カット & ペースト」の開催にあわせて、参加者全員で白壁をコラージュで埋めるワークショップを行いました。コラージュとは、フランス語で「糊付け」を意味する言葉で、新聞紙や雑誌、書籍や壁紙の切り抜きを台紙に貼り付けて表現した絵画技法の1つです。それを今回はより横尾さんの世界観を楽しんでいただけに、制作行程を「選ぶ」・「切る」・「貼る」の3回に分けて、くじ引きで素材や道具を選んでもらいました。好きな素材が選べず、くじ引きで選ぶことの意外さや偶然性に、みなさんはじめは戸惑っていたようです。

しかし、作業を繰り返すうちに、同じ素材や道具に当たっても、その都度アレンジを工夫するようになりました。時間いっぱいまで粘りに粘って、全員の工夫が組み合わさって、楽しく素敵な作品に仕上がりました。

藤原晴日 | 本館学芸員補助

- 1 のり? テープ? 貼る方法も「くじ」次第
- 2 くじを引いて素材を選ぶ! 何が出るかな?
- 3 完成した作品



3

04 Event Report

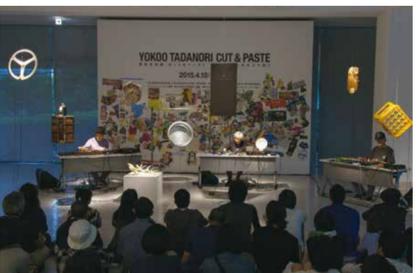
デヴィッド・チュードア 「レインフォレストI」コンサート

2015年5月23日(土) 18:30~19:00、5月24日(日) 15:00~15:30
 当館 オープンスタジオ (1F)
 出演: 小杉武久、和泉希洋志、GUILTY C. 音響協力: 井上音響企画

ライブ・エレクトロニクスの作曲家・演奏家として知られるデヴィッド・チュードア(1926~1996)。その代表作のひとつである《レインフォレストI》を、同氏と親交の深かった小杉武久さんはじめ豪華メンバーで演奏するコンサートが実現しました。

《レインフォレスト》は、日用品などのオブジェにコンタクトスピーカーとコンタクトマイクを取り付け、電子音を送って振動させた音をピックアップし、さらに変調させながら複数のスピーカーから会場に流す、という作品です。GUILTY C.さんはスケート・ボードとビール・ケース、和泉希洋志さんは自転車のホイールとアンティークの中国茶用茶籠(2公演目はチェーン付三脚に変わりました)、さらに異彩を放っていた鹿の頭蓋骨、小杉さんはプラスチック製のボウルと大きな金だらい、そして美術館でたまたまみつけた黒い板(実はPAシステムラックの裏板)と、オブジェの選択にも各演奏家の個性が表れていたようです。それらを天井から吊るしたり、彫刻台に置いたり、まる1日がかりの設営は、コンサート準備というより大きな展示作業のようでした。一気呵成の疾走感にあふれた1公演目、繊細な音の対話が印象的な2公演目。それぞれ演奏は異なりながらも、いずれもめまぐるしく変化する音色に飲み込まれ、あつという間の30分間となりました。

山本淳夫 | 本館学芸員課長



様々なオブジェが設置された演奏会場 撮影: 高崎清俊

MUSEUM SHOP 定休日: 休館日に同じ Tel: 078-855-5697

横尾さんの作品を集めて切ったり貼ったりした「SCANDAL」シリーズ。今回の「横尾忠則展 カット & ペースト」にあわせて店頭が登場しました。夏の展示期間中には夏服やお出かけバッグが目白押し。ズボンやスカート、アロハシャツなどのアパレル類には、横尾さんの様々なコラージュ作品が詰め込まれています。夏のコーディネートワンポイントとしていかがでしょうか? また、横尾さんのコラージュ作品に登場するモチーフを、さらに「コラージュ」して再構築したTシャツも登場。それぞれのモチーフは一枚一枚、丁寧に縫い合わされていて、まるで横尾さんの作品のよう。ぜひ、一度手にとってご覧ください。

藤原晴日 | 本館学芸員補助



- 1 お揃いのファッションも可能!
- 2 夏のレジャーにも最適

Editor's Choice >>> MUSEUM SHOP・アーカイブルーム

アーカイブルーム

アーカイブルームでは「カット&ペースト」展開催中、横尾さんが挿絵を手掛けた瀬戸内寂聴(晴美)さんの新聞連載小説『わたしの源氏物語』関連資料を展示しました。「カット&ペースト」展で着目した1980年代末から1990年代はじめの作品で、コラージュの技法が用いられています。一連の挿絵は後に画集『源氏絵語』として再構成されており、連載時よりも色数が増えたり、背景などの要素が更に加わったりと新たな作品として楽しむことができます。今冬の企画展『幻花』原画展の『幻花』も寂聴さんの新聞連載小説で、横尾さんが挿絵を描いています。『幻花』の挿絵は書籍化されていませんので、全貌を見られる貴重な機会です。どうぞお見逃しなく。

奥野雅子 | 本館学芸員補助



1



2



3

- 1 アーカイブ展示風景。瀬戸内晴美『わたしの源氏物語』『読売新聞』連載より、1987~1988年
- 2 アーカイブルームにて、原画の調査・整理作業中です
- 3 横尾忠則『源氏絵語』1991年、飛鳥新社

新収蔵品紹介

1970年に開催された国民的一大イベント「日本万国博覧会」。「人類の進歩と調和」のテーマのもと、近未来的なムードが漂う会場で、異彩を放つパビリオンがありました。横尾さんが造形ディレクターをつとめた「せんい館」の屋根には、真っ赤なドームが突き出し、建設途中で工事を中断したかのように足場が残されて作業員の人形も赤く塗られ、カラスがとまっていたのでした。当時万博を表明していた横尾さんは、建設作業風景を凍結し、未完のまま提出するという手法でその態度を示したといえます。また、「せんい館」の総合ディレクターをつとめた映像作家の松本俊夫さんは「近代主義的なバラ色未来主義のオブチズムとは、水と油のように調和しないパビリオンをつくるというのが私たちの暗黙のモットーだった」と語っており、その意思は内部のデザインにも現われていました。

左の写真は横尾さんによるドーム内壁の初期のアイデアです。実現はしませんでした。巨大な女性の裸像が並ぶ過激なデザインから、スクランダルな衝撃を起こそうとする姿勢が垣間見えます。実際には巨大な女性像を切断して壁面に貼り付け、その立体的なスクリーンに松本監督の映像作品「スペース・プロジェクション・アコ」が上映されました。構想のプロセスを知るこの貴重な資料は、松本監督のもとに保管されており、このたび当館にご寄贈いただいたものです。

平林 恵 | 本館学芸員

大阪万博「せんい館」映像ドーム内壁デザイン習作
1968 | 横尾忠則現代美術館蔵